



Q2

どんな取り組みをしているの？

A 海外の見本市や物産展などにうちなーむんを出品しているよ。



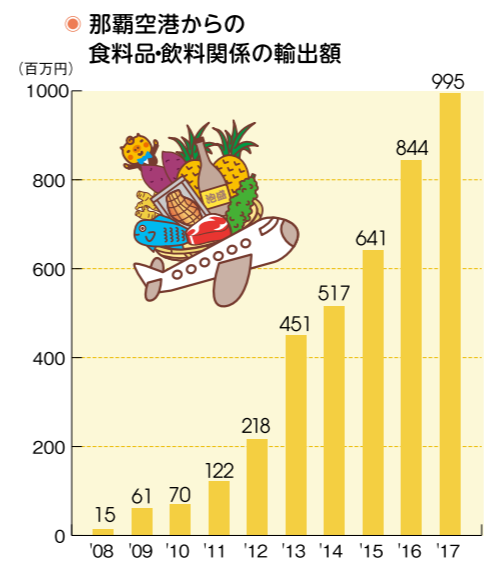
2018年に行われたシンガポールの高島屋における沖縄フェア



「バイオ台湾2018」では、「長寿の島・沖縄」をアピール

うちなーむんの輸出を増やすには、海外の人に沖縄をもっとよく知ってもらうことが大切。そのために、県ではアジア各国で行われている見本市やフェアへの出展に取り組んでいます。例えば、昨年7月に台湾で行われた「バイオ台湾」という国際見本市では、「長寿の島・沖縄」をテーマに10社が参加。ウコン、もずく、シークワーサーといった県産の食材を生かした健康食品や飲料をアピールしました。また、昨年11月に沖縄コンベンションセンターで開催された「沖縄大交易会2018」においては、国内のバイヤーに加え、世界各国よりバイヤーを呼び込むことでうちなーむんの良さをアピールするなど、積極的な施策と努力が実り始めています。

Q1 沖縄からの輸出が増えているのは本当？



2009年10月の沖縄国際物流ハブ開港以降、那覇空港からの食料品・飲料関係の輸出額は順調に増加しているんだね

輸出はこの10年間で食料品と飲料を中心に、急激に増加しているよ。

アジアの近隣国からは、すでに観光地として認知されてきた沖縄ですが、その影響もあって沖縄のいいもの「うちなーむん」が人気を集め始めています。これには、県の物流に対する取り組みも大きく関わっています。もともと大きいのは、2009年10月から開始したANAの国際貨物ハブ事業です。那覇空港から4時間圏内の国内外の主

要8都市で始まり、拡大と調整を繰り返しながら、24時間体制で貨物が行き来しています。ハブ事業が始まる前と比べると、那覇空港の国際貨物取扱量はなんと100倍まで増加。成田、羽田、関西空港に次ぐ、日本で4番目の規模にまで成長しました。食料品と飲料関係の輸出額も順調に増加しています。

この背景には、もちろん東アジアの中心に位置する沖縄の地理的優位性がありますが、海外にうちなーむんの良さを伝え広める県や企業の取り組みの成果といえるでしょう。

Q3

どんな「うちなーむん」が人気のの？

A 肉や魚などの食材から、お菓子や飲みものなどの加工品まで様々だよ。



鮮魚 FRESH FISH

迅速な手続きで新鮮な魚を海外へ

これまでは検査や申請などで時間がかかり、鮮魚の輸出は困難でしたが、体制を整えて鮮度が高いまま輸出できるようになりました。香港、シンガポール、中国に、新鮮なマグロなどが輸出されています。

菓子 SWEETS

沖縄のスイーツやその原料も海外展開へ

観光客にはお土産として定評のある黒糖や紅芋を使った菓子類も、海外の物産展などに出品しています。また、黒糖や紅芋はケーキなど菓子類の原料としての需要もあり、香港や台湾への輸出量が增大しています。



うちなーむんでもっとも需要が高いものひとつが、食品です。食品といっても様々ですが、近年では鮮魚の需要が高く、マグロ類は高級魚として香港やシンガポールに輸出されています。また、ラフテーやソーセージといった食肉加工品も、香港などと様々な品目を取り引きされています。他にも、黒糖や紅芋は原料としても注目されているほか、これらを使った菓子類も人気。さらに健康食品としてもろみ酢やもずくなども評価されています。映画のタイトルになったジーマーミ豆腐がシンガポールでブレイクするなど、うちなーむんの需要が高まっています。

精肉 MEAT

ブランド肉から食肉加工品まで幅広く

沖縄はブランド牛やアグー豚など県産肉が豊富ですが、その認知も徐々に海外へと広がっています。また、ラフテー、ソーセージ、餃子といった食肉加工品も海外の飲食店や小売店で販売され、主に香港での売れ行きが好調です。

健康飲料 HEALTH DRINK

長寿の島をアピールした食材と食品

東アジアは健康志向が強い傾向があり、沖縄産のウコン、シークワーサー、もろみ酢といったスーパーフードを使用した飲料の輸出が増えています。また、台湾ではゴーヤーを原料にしたお茶がコンビニで販売され定番となりました。

赤瓦

瓦コースターでおなじみの新垣瓦工場が、タイに工場を展開し独自のお土産を開発。赤瓦の素材を使った象の絵柄のアロマストーンは、特に中国人観光客に人気。

ジーマーミ豆腐

沖縄を舞台にシンガポール人が監督主演した映画『ジーマーミ豆腐』が、2017年のハワイ国際映画祭で観客賞を受賞。シンガポールでも上映され、デパートの物産展でも即完売。©BananaMana Films Pte Ltd 写真提供：株式会社okiccom

こんなものも人気だよ!!